

RSウイルス感染症

RSウイルス感染症について

RSウイルスの感染による**呼吸器の感染症**です。

生後1歳までに半数以上、2歳までにほぼ100%の子どもが少なくとも1度は感染するとされています。

1歳未満、もしくは入院した場合にRSウイルスの検査を行うことがあります。

初めて感染した場合は症状が重くなりやすく、特に生後数週間～数ヶ月の時期においては、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。

冬に流行のピークが見られますが、ここ数年は9月くらいから患者数が増えてきています。

どんな症状？

潜伏期間は2～8日（典型的には4～5日）。

発熱、鼻汁などの症状が数日続きます。

多くは軽症ですが、重症になると咳がひどくなる、ぜいぜいする、呼吸困難などの症状が出現し、細気管支炎、肺炎へと進行します。

通常は7～12日で改善します。

生後2ヶ月未満の赤ちゃんでは突然死につながる無呼吸発作を起こすことがあります。



治療法は？

特効薬はありません。

ほとんどは自然経過で良くなります。

呼吸が苦しい、無呼吸がある、水分がとれないなどあれば入院して点滴や酸素の治療を行います。

現在、ワクチン也没有ありません。

予防の ポイント

Point

手洗い・うがい・マスク

感染している人の咳やくしゃみ、感染している人との接触やウイルスがついているおもちゃ、コップ、椅子などを触ることによる間接的な接触で感染します。

手洗いを十分に行うことが大切です。

年長児や大人では咳があっても症状が軽くすむためRSウイルス感染症と気づかれないことが多く、乳児は接触を避けることで発症予防につながります。



手洗い



うがい



マスク



潜伏期間 2～8日 改善まで 多くは1週間程度